

# サギソウの促成栽培の可能性

島田有紀子・山口修治

2018年6月中旬に日本植物園協会の総会が当園にて開催されることとなり、そのときに当園のシンボルマークであるサギソウの展示を行いたいと考えた。

当園では、数年前より、7月下旬から8月にかけてフクシア温室周辺でサギソウの装飾展示を行っているが、促成栽培を試したことはない。そこで、サギソウの早期開花の可能性について探るため、掘り上げ時期と加温開始時期を変えて開花への影響を調べた。それとは別に、開花中の栽培温度が観賞期間に及ぼす影響についても調べた。

## 材料及び方法

### 実験1. 球根の掘り上げ時期、加温開始時期が開花に及ぼす影響

2016年11月から戸外で葉が黄変し、茎葉が枯れた後のサギソウ球根を実験に供試した。

12月1日に掘り上げた球根を径9cmのポリポットに植え付け、戸外に3週間おいた後、12月22日から最低温度15℃加温の温室で栽培した区、12月22日に掘り上げた球根を同様のポットに植え付け、直ちに最低温度15℃加温の温室で栽培した区、12月22日に掘り上げた球根を同様のポットに植え付け、戸外に3週間おいた後、2017年1月12日から最低温度15℃加温の温室で栽培した区、1月12日に掘り上げた球根を同様のポットに植え付け、直ちに最低温度15℃加温の温室で栽培した区の4区を設けた。4月1日からは全区とも13℃加温の温室に移し、5月1日から戸外に移して栽培し、開花をみた。各区50球を供試し、第一小花が開いた日を開花日とし、その開花率と平均開花日を調査した。

### 実験2. 開花中の栽培温度が観賞期間に及ぼす影響

2016年11月に地上部が枯れた球根を2017年3月に掘り上げ、直ちにポリポットに植え付け、戸外で栽培した。開花直前株を用い、一方を7月25日にフクシア温室の戸外に、他方を7月27日にフクシア温室内に装飾展示した。戸外は遮

光率70%の寒冷紗の下なりゆき温度、フクシア温室内は25℃/18℃（昼温/夜温）に設定した温度であった。

## 結果

### 実験1. 球根の掘り上げ時期、加温開始時期が開花に及ぼす影響

12月1日に掘り上げた球根を3週間戸外におき、その後12月22日から最低温度15℃加温の温室で栽培した区で開花は最も早く、6月27日に開花した（表1）。それより3週間後の12月22日に掘り上げた球根を直ちに15℃加温した区では、開花率が14%と極めて低かった。一方、12月22日に掘り上げた球根を3週間戸外においた後に15℃加温した区では開花率は88%と高く、7月3日に開花した。それより3週間後の1月12日に掘り上げた球根を直ちに15℃加温した区では、7月5日に開花し、前者とほぼ差異はなかった。

### 実験2. 開花中の栽培温度が観賞期間に及ぼす影響

全体の約9割程度の株が開花を終了した時点で展示を終了した。戸外での展示期間は7月25日から8月22日までの29日間、25℃/18℃の温室での展示期間は7月27日から9月4日までの40日間であった。

設定区	開花率 (%)	平均開花日
12/1 掘上・植付→12/22から15℃加温	74	6月27日
12/22 掘上・植付→直ちに15℃加温	14	7月3日
12/22 掘上・植付→1/12から15℃加温	88	7月3日
1/12 掘上・植付→直ちに加温	72	7月5日

## 考察

実験1において、12月1日に掘り上げた球根を12月22日から15℃加温した区と、12月22日に掘り上げた球根を直ちに15℃加温した区では、加温するまで同じ戸外に置かれていたにもかかわらず、開花率に大きな差があった。球根掘り上げ後の3週間が球根の充実のために必要な期間なのか、あるいは開花に先立って必要な期間なのかは分からないが、1月12日に掘り上げた球根を直ちに15℃加温した場合には開花率はさほど低くならなかったことから、この頃になれば速やかに成長を開始し、開花に至ること

が分かった。

本実験の結果、開花は最も早い区でも6月下旬であり、この栽培方法では、日本植物園協会の総会が開催される6月中旬の開花は望めないことが分かった。

他方、周年開花を行っている姫路市立手柄山温室植物園から、6月開花のためには12～1月に球根を植え付け、最低18℃加温室で栽培しているとの助言を得た。

本実験では全区とも植え付け後約1か月で発芽はみられたことから、休眠は確実に打破されていると思われる。しかし11月下旬にならないと地上部が完全に枯れないため、それ以上早く掘り上げると球根の充実が望めない。6月開花には、手柄山温室植物園のように最低18℃以上で加温するか、もしくは昼温をより高めれば間に合うのかもしれない。

実験2において、展示期間は戸外に比べ、冷房温室内では約10日間長かった。

今年度はサギソウの装飾展示をフクシア温室内とその周辺の4か所に設け、総計約3700株を展示した。年々スケールが増す展示に来園者からの問い合わせも多く、好評を博しており、少しでも長く展示を行うことは価値があると思われる。

なお、データは取らなかったが、実験1における6月下旬から7月上旬に開花させた株は、ほぼすべてで、1株あたり1輪しか開花しなかったが、実験2における季咲き株は、1株あたり2～3輪開花した。使用した球根の大きさに差異はなく、成長期間の差異が影響しているものと思われる。

以上より、地上部が枯れた後に球根を掘り上げて植え付け、最低15℃加温で栽培した場合には6月下旬以降の開花となること、観賞期間は冷房温室で栽培するとより長くなることが分かった。



写真1. フクシア温室周辺のサギソウ展示の様子

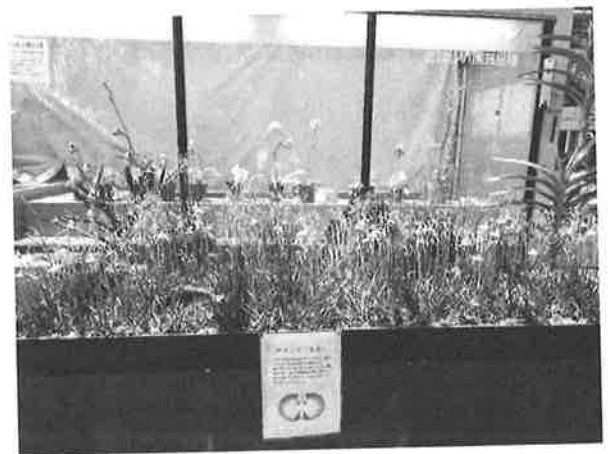


写真2. フクシア温室内のサギソウ展示の様子